

活動報告

「京都環境フェスティバル 2020」 ～高校生による気候行動サミットへの参加を終えて～

昨年度の第11回「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式に併せて開催された「京都環境文化学術フォーラム」国際シンポジウムへの参加に引き続き、今年度も「気候変動」をテーマに高校生による発信の場をいただきました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から国際シンポジウムが中止となりましたが、オンラインで開催された「京都環境フェスティバル 2020」の「高校生による気候行動サミット」に参加させていただきました。京都府内の高校生が、気候変動研究の第一線で活躍されている研究者の方々の講演等を受け、高校生という若い世代が気候変動に関する理解を深め、地球環境問題解決に向けた行動をどのように変えていくかを議論しました。

この報告では、勉強会から気候行動サミット当日までを報告させていただきます。



京都環境フェスティバル「高校生による気候行動サミット」での交流の様子

この気候行動サミットへは、京都工学院高校、西京高校、嵯峨野高校、塔南高校、峰山高校、桃山高校、洛北高校、そして北稜高校の8校から29名が参加し、本校からは総合地球環境学研究所（地球研）との連携授業「地球環境学の扉」を通じて5名の生徒が参加させていただきました。高校生による気候行動サミットに向けては、京都府（京都府地球温暖化対策課）、京都市（京都市地球温暖化対策室）、地球研の指導のもとに準備を進めました。

○第1回勉強会「気候危機 2050 年のイメージ」

令和2年12月16日 オンラインでの実施

講師：木原 浩貴 氏（京都府地球温暖化防止活動推進センター副センター長）

キーワード：「気候危機」と「実質ゼロ」

生徒達は事前にグレタ・トゥーンベリ氏のスピーチを視聴し、若い世代の気候変動に対する主張に触れた上で参加しました。さらに、当日は「Friday For Future Kyoto」の活動団体代表の大学生の声を実際に聞くことができ、若い世代の環境保全に向けた「行動」について、熱い議論を交わすことができました。

右下の画像は、高校生達が気候変動に関する行動に対しての主張を一言でまとめたものです。



○第2回勉強会「高校生に伝えたいこと・気候アクションへ」

令和3年1月13日 オンラインでの実施

講師：江守 正多 氏（国立環境研究所 地球環境研究センター副センター長）

キーワード：「地球温暖化」と「気候変動」

2回目の勉強会ともなるとさらに踏み込んだ内容となり、知識・理解を深めるだけでなく、実際に「行動」へシフトするためのイメージへと繋げることを行いました。

各校、2050年の脱炭素のステキな京都の姿をイメージし、「半径Xkmのアクションプラン」をテーマに気候変動に対する具体的な行動を考えました。何が問題であり、その解決のために誰と協力し、どのようなシステムを構築する必要があるのか。課題はまだまだ山積みであることに気づかされました。



○第3回勉強会「気候正義」

令和3年2月10日 オンラインでの実施

講師：宇佐美 誠 氏（京都大学 大学院地球環境学堂教授）

キーワード：「気候正義」と「世代間倫理」

第3回目の勉強会は、各校のアクションプランを確認しました。本校は京都の伝統・文化に焦点を当て、「人力車」に注目し、観光地周辺に人力車専用エリアを設置した自動車の通行規制やエコキャンペーンとして文化財保護や地域活性貢献に対しての援助金の支給など、観光地である京都の特徴を生かしたプランを発表しました。

先生方からの講評では、

- ・専用レーンを設けるなど、社会システム変革に踏み込んでいるのがポイント
- ・半径4km という小さな範囲でのアクションを提案しているが、実はそれをつなぐ公共交通を再生エネルギーで走らせるという重層的な提案がなされている点も高く評価される
- ・観光に特化した都市であるという京都市の特徴をよく捉えており、それを踏まえた上で、一点集中で人力車の利用によって脱炭素社会を実現するという考え方は今後の対策のヒントになると感じた
- ・特に、自動車に乗らなくてもよい街を目指すことに共感する

などの意見をいただきました。また、気候行動サミット本番で実施するパネルディスカッションのテーマについて、生徒全員で考え、意見を出し合いました。

そして、3回の勉強会を終え、次回は高校生による気候行動サミット本番となりました。



北稜高校が提案したアクションプラン



○「京都環境フェスティバル2020」高校生による気候行動サミット

令和3年2月13日 オンラインで実施

高校生による気候行動サミット本番では、「半径X kmの気候行動アクション」をテーマにした各校の気候アクションプランの発表、及び宇佐美誠氏、江守正多氏を交えて「ゼロカーボン社会って？」をテーマにしたパネルディスカッションが行われました。生徒達のこれまでの勉強会の取り組み姿勢をもとに、本校からはパネルディスカッションの代表生徒に1名が選出されました。

【パネルディスカッション「ゼロカーボン社会って？」】

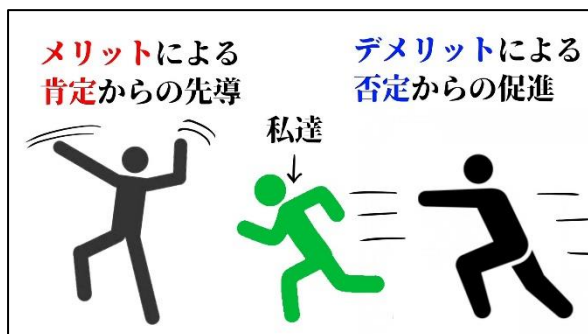
宇佐美誠氏にコーディネーターを担当していただき、登壇者として江守正多氏、嵯峨野高校、洛北高校、本校の3校から1名ずつ生徒が参加しました。

議題 1. 江守先生の発表を見てどんなことを考えたのか

議題 2. ゼロカーボン社会の目標を果たすために、政治家や官僚、自治体職員、企業、マスコミなど、誰が具体的に何をすべきか

議題 3. 私達、大人達に何ができるでしょうか

特に、議題3では、本校生徒はメリットとデメリットをはっきりと人々に提示することで、図のように両サイドから人を動かしていくことの必要性、そして、積極的な情報の受信と発信の重要性について主張しました。



「生徒が作成したパネル」



パネルディスカッションでの発言の様子

【パネルディスカッションでの本校生徒の主張】

情報を押しつけられるのではなく、自らがそれを受け取って、分析し、広い視野を持つこと、そしてグレタ・トゥーンベリ氏のように環境問題解決の方向への積極的アプローチに対して、Twitterなどで「いいね」やリツイートすることも一つの発信として、自分のできる範囲のことを行っていくことが大切だと思います。積極的な受信を大なり小なり行動に移すことが、環境問題解決に向けた推進力になると思います。

また、これらの内容について宇佐美誠氏からも、「積極的な受信・配信。良いと思います。ただ、ニュースなどで受け取るだけでなく、それをどう思うのかを考えること。グレタ・トゥーンベリ氏のような活動だけでなく、その活動に対して『いいね』を押すなど、小さな発信から始めていくことの大切さを伝えてもらいました。」と講評をいただきました。

※「半径X kmの気候行動アクション」をテーマにした各校の気候アクションプラン及び「ゼロカーボン社会って？」をテーマにしたパネルディスカッションの様子は「京都環境フェスティバル2020」のHP上で動画として公開されました。



オンラインで行われたサミット当日の北稜生の発言の様子

「高校生による気候行動サミット」は、日本で気候変動に関する第一人者の方々から最高峰の知に触れる機会に加え、開かれた発表の場となりました。

これらは、今はまだ生徒にとって目新しい体験の一つとなっていますが、生徒一人ひとりの意識から行動が変容し、若い世代の気候変動に対する力強い発信で社会の仕組みを変えることで、こういった取り組み自体がスタンダードとなっていきます。

北稜高校では今後も環境教育を柱に、次世代を担う高校生の育成に力を注いでいきたいです。